

日 時	平成25年7月11日（木）午後7時30分～午後9時10分		
会 場	日和田公民館	出席者数	7 人

地域座談会の内容（意見交換等の内容等）

① 緊急通報装置の設置ということで業者の人が老人の一人暮らしの家に来た、と聞いた。家族の人がいる時などにきてもらう方がいいのではないか。

→ 緊急通報設置事業は、業者に委託して実施している。市でも本人、家族の方には話を通して紹介するなどして、市民の方が不安感をいだかないようにしていく。

② デマンド型公共交通事業の利用状況はどうか。また、待機児童はいるのか。

→ デマンド型タクシーについては、昨年エリアを拡大したが利用状況は予想していたよりも低い状況です。醍醐地区の登録者数は本年6月末現在で206人、利用者数は平成23年11月から平成24年10月までが月平均26人、平成24年11月から平成25年年6月までは月平均35人となっている。

待機児童はおりませんが、希望者が定員を超える保育所とそうでない保育所があり、調整させていただく場合もあるため、希望した保育所でない場合もあります。子どもの数も地域的なバランスが変わってきており、また施設も老朽化しており、保育所を再編して全体的な見直しをしていかななくてはならない。

③ 高齢化率はどのぐらいか。また、東根市の人口は以前は寒河江市と同じくらいだったが、子育て支援が充実しており若い人が移住してくると聞く。寒河江市でも子育て支援策はやっているようだが頑張してほしい。

→ 30年前位に天童市は区画整理事業をして住宅団地を造った。山形市の受け皿として人口が伸びてきた。そして、住宅が張りついてくると住宅の価格が高くなり、若い人は手が届かないようになった。東根市、村山市も住宅団地を造り、工業団地を造成してきた。各市の将来の人口はすべて減少すると推計されている。若い人に対しての経済的な支援や雇用対策は必要だ。総合的な施策を展開して、人口の減少を少なくしていかななくてはならない。また、子育て支援施設や遊び場なども必要だ。今年ゆめタネさがえの会場では子どもが楽しむイベントを開催したり大型遊具を設置したが、土日には親子連れがたくさん来てくれてとても好評だった。県の公園だが評判がいいので、市でも宣伝をしていきたい。

④ 山形新聞を見ていると、寒河江市より東根市の記事の方が多気がする。同じようなことをやっているのだが、東根市がトップの方に載っている気がする。市ではどう考えているのか。

→ 市民の皆さんの活力を記事に提供することは市民の方にも励みになる。同じようなことを寒河江でもやっているのだが、提供しないから載らない。情報をきちんと提供していかなくてはならない。市の職員は情報をいっぱい集めて記者に提供していかなくてはならない。記事になれば市民の人は喜んで元気になるし、大きな役割だと思う。慈恩寺の秘仏展は評判がいいし、来年はデステネーションに合わせて全面公開する。来年は市政施行60周年にあたるが、受け入れ体制や案内などを含めPRしていきたい。さくらんぼの生産は山形県が1位で2位が北海道だ。ライバルは東根市や天童市でない。全国の百貨店を回るとマンゴーやメロンが売り場の真ん中にある。来年は山形県と一緒にさくらんぼのPRをしていくことにしているが、県全体で戦っていかなくてはならない。

⑤ 地域の一人暮らしの世帯などがわからない、個人情報についてどう考えているか。

→ 個人情報保護法により本人が了解しないと登録できない。市でも災害時において要支援が必要な人を登録してもらっているが、本人が了解しないとできないので、現在800人弱位しか登録していない。実際は一人暮らしの人はもっとたくさんいる。民生児童委員の人は、地域の方の家庭の状況をわかっているのだから、ある程度情報を共有していけば、いざという時には近所の方が支援していけるようになるのではないかと思う。

⑥ 資料の中にある交通安全対策(通学サポーター配置)とは何か。

→ 委嘱している交通指導員の外に、通学時に危険な箇所や事故が多いところに臨時的にサポートする人を配置しているものです。

⑦ 慈恩寺観光振興(7843千円)は主に何に使われているものか。

→ 駐車場の安全対策や慈恩寺境内のライトアップをしたり、慈恩寺境内に案内ガイドを雇用して配置したりしているがその経費となっています。